上川井だより

令和４年１０月３１日
横浜市立上川井小学校
校長　　山崎　真紀子

11月号

ほんとの空

副校長　荒海　透

今月はじめの夏日が信じられないほど、秋の深まりを感じる今日この頃となりました。新型コロナ感染症の第７波もようやく落ち着きを見せ、全国旅行支援が始まるなど、第８波の不安を感じつつも、全国的に以前のようなにぎやかさが戻ってきたことを実感します。

本校においてもズーラシア全校遠足、マリノスサッカーキャラバン、ベイスターズの授業、若葉台特別支援学校との交流など、感染症対策に気を配りながらもさまざまな行事を再開することができた１０月でした。来月には上小フェスティバルも控えています。今後もマスク着用や給食の黙食等、子どもたちは制限下の学校生活をしばらく続けていかなければならないと思われますが、そのような状況においても保護者の皆様に、少しでも子どもたちの生き生きとした姿をお見せすることができればと考えております。

先日、私の故郷である福島の実家から車で３０分ほどのところにある「安達太良山（あだたらやま）」に登ってきました。安達太良山というのは百名山の一つで標高がおよそ１７００ｍです。途中まではロープウェイも整備されているので、百名山の中では登山しやすい山の一つだと思います。紅葉の最盛期は少し過ぎてしまった感じはありましたが、普段目にすることのない色彩の鮮やかさや安達太良山の上に広がる空の美しさに目を奪われました。

地元の人々にはもちろん親しまれている山なのですが、全国的には安達太良山というと詩集「智恵子抄」に収録されている「あどけない話」を思い浮かべる方もいらっしゃるかもしれません。これは、詩人、彫刻家である高村光太郎が、福島県出身で洋画家であった妻、高村智恵子について著した詩集「智恵子抄」の中の一つの詩「あどけない話」です。こんな詩です・・・

あどけない話
智恵子は東京に空が無いといふ、　ほんとの空が見たいといふ。　私は驚いて空を見る。
桜若葉の間に在るのは、　切つても切れない　むかしなじみのきれいな空だ。
どんよりけむる地平のぼかしは　うすもも色の朝のしめりだ。　智恵子は遠くを見ながら言ふ。
阿多多羅山(あたたらやま)の山の上に　毎日出てゐる青い空が
智恵子のほんとの空だといふ。　あどけない空の話である。

大人になって東京で暮らすようになっても、子どものころに過ごした故郷に対して深い愛情をもっていたことが感じ取れる詩といえます。それだけ幼少の時期の思い出は鮮やかに残り、生涯心の中に残るということでしょうか。そう考えると上川井小の子どもたちもとても大切な時期を生きていると改めて感じます。新型コロナの影響を経て、さまざまな行事が戻りつつある今、一つ一つの行事や学習の意義を見つめ直すのによい機会となっています。本当にそれを学ぶ必要があるのか、本当に学ぶべきことは何なのか、私たち教職員も真剣に考えていきたいと思います。

上川井小の子どもたちにとって「ほんとの学び」「ほんとの仲間」が得られるように、今後も支援していきたいと思います。